

## 令和 2 年度 第 3 回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 令和 2 年 9 月 1 7 日（木） 1 6 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0
- 2 場所 宝塚市役所 3 階 特別会議室
- 3 出席者 （構 成 員）中川市長 森教育長 川名教育委員 篠部教育委員  
木野教育委員 望月教育委員  
（関係職員）井上副市長 教育委員会事務局理事 管理部長  
管理室長 教育企画課長 職員課長 教育企画課係長  
学校教育部長 学校教育室長 幼児教育担当次長  
特別支援・人権教育担当次長 教育支援室長  
学校教育課長 学校教育課副課長 社会教育部長  
（事務局）企画経営部長 政策室長 政策推進課長 政策推進課係長

### 4 内容（議事概要）

#### ■開会

中川市長の挨拶後、議題 1 「再発防止策に対する方針（骨子）」についての公開について会に諮り、非公開決定する。

（傍聴人退出）

#### ■議事

議題 1 「再発防止策に対する方針（骨子）」について

（資料について、教育委員会事務局から説明）

4 つの大きな柱を目標にして、それぞれ方向性と具体的取組を示している。併せて、それぞれの取組の箇所では今後 5 年間の取組内容を表にし、5 年経過すれば見直しをしながら改善していく予定で作成している。検討段階では、検証委員にアドバイスをいただいた。

【再発防止策（案）の1「子どものSOSに気づく力を高めます」について】

- ・再発防止策は今回と同じようなことが起こらないようにするために作成するものである。
- ・大人たちから見えない場所、LINEやSNSで問題が起きており、ITに関する理解を先生達が深めなければいけないので、SNSを深く知ることを再発防止策に盛り込んでいく必要がある。子ども達のいじめはネット空間で起きていることが多いと思う。
- ・先生は子どもたちの意見を吸い上げるだけではなく、子どもが何を求めているか判断し、与えられる力をつけてもらうことが大事だと思うので、この項目については様々な取組でこういう力を上げていこうとしているので、最初の項目にくることは良いと思う。
- ・この事案から教師全員が学ぶということをもっと強調してほしい。学ぶということは話し合いも行われるだろうし、こういうことが大事だと思う。
- ・少人数指導や教科担任制の積極的な推進は、簡単に実現できるのか。少人数指導や教科担任制がSOSを出しやすい環境づくりに繋がるという流れを分かりやすくしたほうが良い。また短期はアンケートの実施、中期はアンケートの見直し、長期はいじめ対応の確立と分かりやすく記載してほしい。
- ・いじめの早期発見と認知力の向上の箇所について、いじめの早期発見には教師のいじめに対する意識を高めないとできない。それには、人権教育の推進が必要である。具体的な行動計画のようなものが必要ではないか。
- ・子ども達のリテラシーの取組については既に実施しているが、再発防止策の中に入れてもらいたい。
- ・一つ一つの再発防止策に私たちが過去にできていなかった悔しさや二度と起こしたくないという思いが感じ取れて初めて、再発防止策に命が吹き込まれると

思う。

- ・教職員が互いに情報共有する仕組みの構築の箇所では、前提として、現時点で不十分な理由をしっかりと考える必要がある。現状はどうなっているのか、どういふ風に変えていくのか、具体性が見えない。
- ・いじめの定義はその人が心身とも苦痛と感じた場合はいじめであり、子ども達に分かりやすくイラストなどで示していく。
- ・少人数指導については小学校、中学校とも実施している。教科担任制は、小学校については全ての小学校では取り入れできていないが、高学年についてはできるところから、例えば教科を決めて取り入れていきたいと考えている。
- ・教科担任制は子どもがSOSを出しやすい環境づくりにすごく効果的だと思っている。この点を再発防止策で推進していけば、これまで学校任せであったものが、市で統一していけると思う。

以上の意見を踏まえ、全体的にもう少し具体性を加えるということで、調整された。

#### 【再発防止策（案）の2「子どもの主体性を育てます」について】

- ・子どもたちも参加して、再発防止に努めてほしい。全体的に言葉遣いを平易に書いておけば、小学校高学年にもなれば意見は言えるのではないか。
- ・地域ごとの保幼小中交流会の実施と人権ブロック別研修の実施は本市の強み、特色である。目指す子ども像が大事で、再発防止策で目指す子ども像をしっかりと決めて取り組んでいきたい。そして、その進捗状況をお互いに交流の中で共有していく。
- ・再発防止策は大人の問題だと思っている。組織風土や学校の風通しが悪く、管理職にも情報がいかない、そのうえ教育委員会にも情報が来ない。そういう中で起きた犠牲だと思っている、子ども達に責任はないと思っている。

- ・子どもの頃から人権感覚を身につけないと、いじめを見逃すことになる。大人だけでは解決しないのではないか。

以上の意見を踏まえ、文言調整があれば対応することで調整された。

### 【再発防止策（案）の3「部活動を改革します」について】

- ・実際に部活動の場でトラブルが起きている。部活動とは何かと聞いてみれば、部活動や学校、子ども一人ひとりの受け取り方も違うが、部活動で何か問題があることが見えてくる。
- ・部活動の意義について、人間形成に繋がるように、教育的意義というのをはっきり書かないといけない。
- ・部活動に問題があることは先生達も認識していて、ほぼ全員顧問制で教師の忙しさの原因になっており、様々な暴力事案の原因にもなっていて、子ども達だけでなく先生たちも苦しんでいる。日本では長い間、練習は裏切らないとか、時間をかけるほどいいように考えられてきたが、スポーツ医学が発達し考え方は変わってきている。例えば、全ての部活動の練習は週3回に限るという方針を打ち出せば、先生もだいぶ楽になり、子ども達も家族と過ごす時間とか部活動以外で体験を積む時間も増えると思う。
- ・今回前進したのは、アンケートを実施して実態を把握すること。実態を把握していないと対策を立てられない。アンケートを実施することは評価できる。
- ・部活動改革をするなら今がチャンスと思っている。部活動では先輩後輩の関係が大きく、継承されてきている伝統が多いが、今年は新型コロナウイルスの関係で部活動ができていないため、伝統的なことが破壊されている部分もあり、改革をしやすい状況になっているのではないか。
- ・保護者が子どもに期待する、子どもは期待に応えようとする構図があり、部活動への保護者の影響は大きい。保護者の意識改革も含めて思い切った改革がな

ければ、部活動の問題は深刻なままだし、再発防止という点でもやはり同じことが繰り返されると危惧している。

- ・部活動を子どもたちのために改革しなければ、私たちの責任は果たせないと思っている。部活動の改革を再発防止策の一つのテーマとしてやっていくという決意で臨んでいきたい。

以上の意見を踏まえ、内容については再度議論することで調整された。

#### 【再発防止策（案）の4「チーム学校で取り組みます」について】

- ・心の問題の専門家の配置をしてほしい。教科担任制でも対応しきれないので、心の問題に特化した専門家が学校には絶対必要である。
- ・中学校には全ての学校にS Cが配置されているが、週1～2回の限られた時間数しか派遣がなく、相談したいときにいない、どうしたらそこに相談できるのかということを十分に知らない子どもたちもいる。まずは教職員が、自分たちを必ず通さないといけないという考え方を変えていくことが大事である。
- ・担任を通さないといけないから、何を相談してきたのと聞かれるのが嫌でS Cを利用しない。子どもが相談しやすい環境、子どもの立場に立って考えていかないと、宝の持ち腐れになる。
- ・教師同士のコミュニケーションを図るとか、他の先生に相談することが、心理的に壁があるように感じるので、教育委員会には解決に向けた対応をお願いしたい。また、地域ぐるみの子どもの見守りの中には保護者の役割が出てこないが、家庭教育の支援も考えないといけない。
- ・学校から教育委員会事務局に報告のあった事案について、教育委員の会議に報告する際に正確に伝わる仕組み作りが必要であり、分かりやすく記載してほしい。
- ・教育委員会は各学校に目配りしていないといけない。教育委員会が学校現場に

行くことは大事であり、そのためには、どのような準備や学校現場への周知が必要で、そこで得るものは何か。言葉が足りないので、意見を反映して直してほしい。

- ・市民が読んで分かるようなものにしないとイケない。

以上の意見を踏まえ、今回の意見を反映した再発防止策について、次回の総合教育会議で検証委員も加えて議論することで調整された。

以上